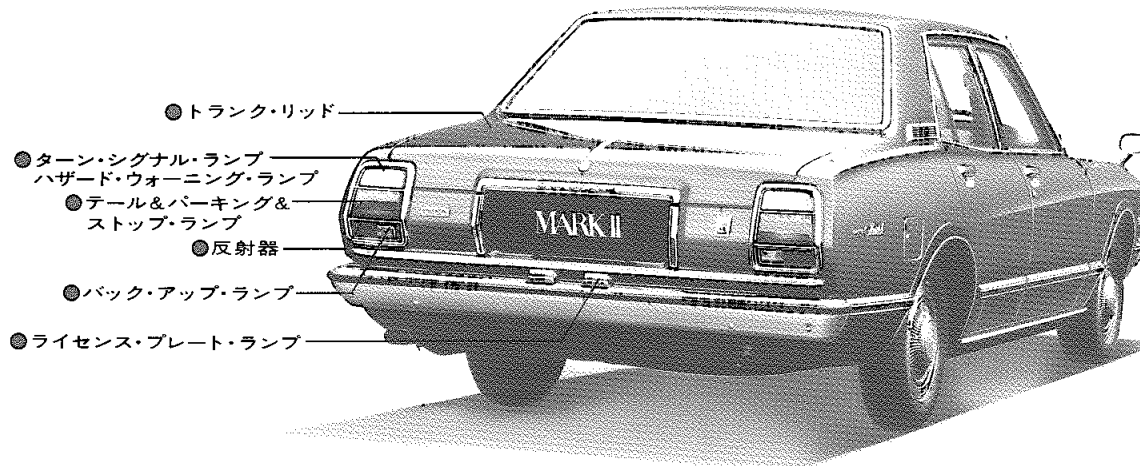


装備の知識について

セダン車

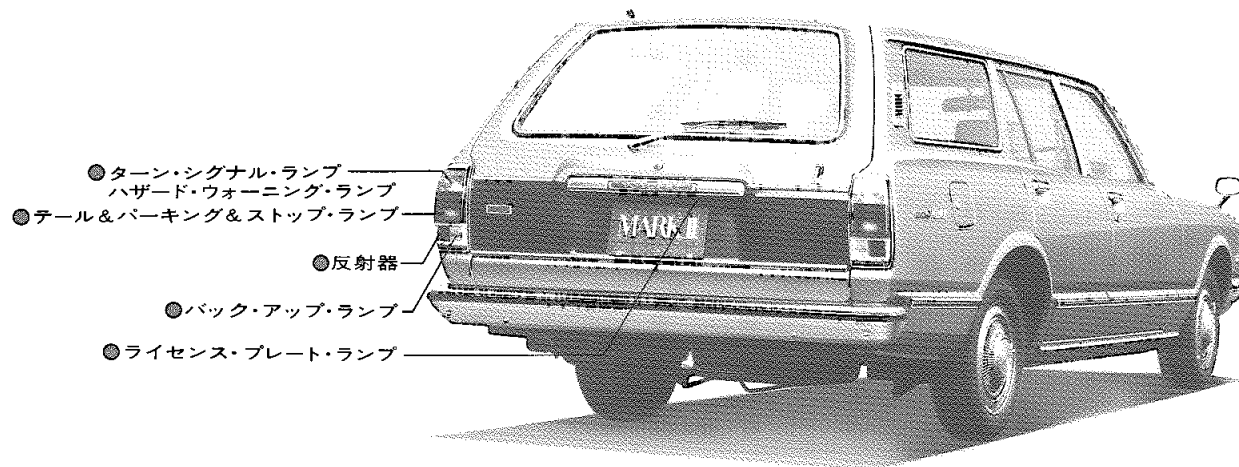


コロナ マークII セダン LG車

● = 装備の知識について

無断複製禁止

ワゴン車



コロナ マークII ワゴンL車

● = 装備の知識について

無断複製禁止

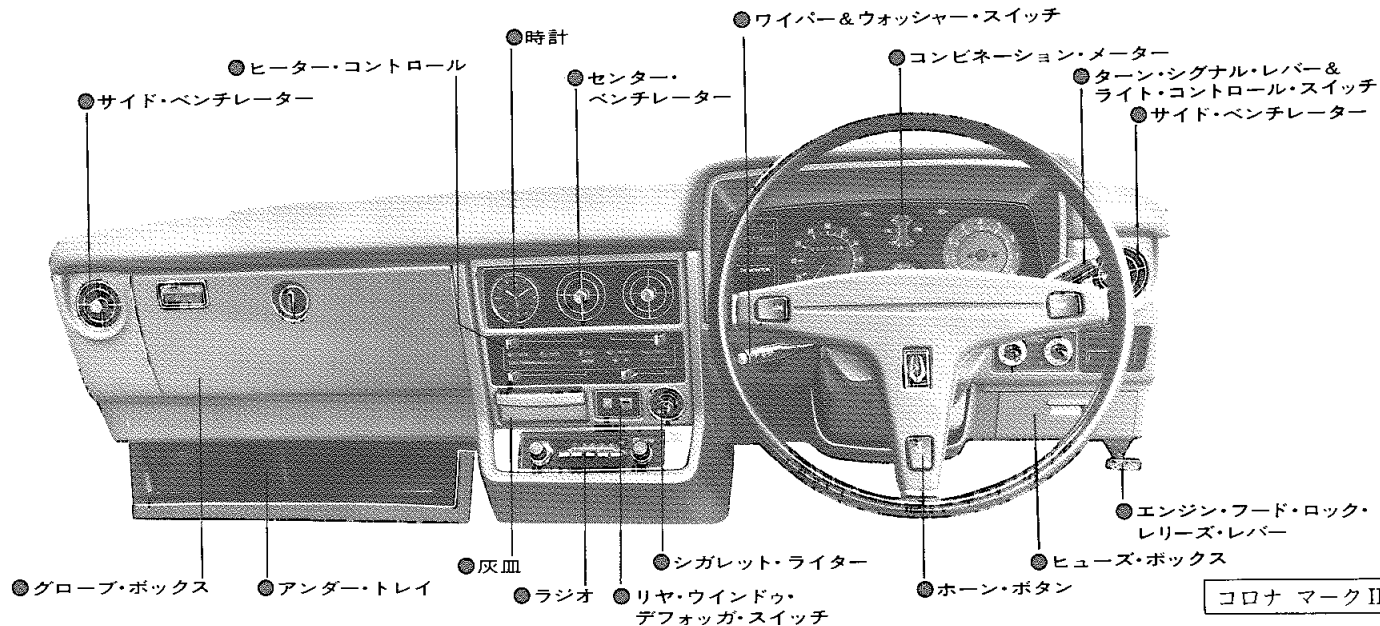
トヨベツト コロナ マークII セダン, ワゴンの装備について説明してあります。

下記の表の装備品は, その使用説明個所に★マークをつけ, 全車面の標準装備でないことを示しています。

装備品	電磁式ドア・ロック	パワー・ウインドウ	トランク・オープンナー	トランク・ルーム・ランプ	マップ・ランプ	ランバー・サポート(セパレート・シート・ベルトのみ)	ELR式フロント・シート・ベルト	NLR式フロント・シート・ベルト	防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー	リモート・コントロール・ミラー	EDモニター(タコメーター付の場合なし)	タコメーター	フューエル・ウォーニング・ランプ	オイル・プレッシャーゲージ ①② ランプ	アンメーター	OKモニター			間欠ワイパー	リヤ・ワイパー	リヤ・ウインドウ・デフォッグ・スイッチ	ESC(オート・ドライブ付の場合なし)	オート・ドライブ(ESC付の場合なし)	時計			ピラー・アンテナ	AMラジオ	AM・FMラジオ	AM・FMマルチ・ラジオ	ステレオ	ヒーター	エア・コンディショナー	オート・エア・コンディショナー	グローブ・ボックス・ランプ	コンソール・ボックス	セパレート・シート車のみ フルコンソール ①② セミコンソール		
																3項目	5項目	6項目						電子式	音波式	水晶式デジタル													
説明ページ	14	14	15	15	16	16	17	17	18	18	23	24	24	24	25		26		27	28	28	29	29	30	30	30	30	30	31	31	32	33	35	36	37	37			
STD								●																	△														
1800 DX			△			●		●	△										△		●				●		●	△		△	●	△				●	●		
2000 DX			●			●		●	△										●		●				●		●	△		△	●	△				●	●		
GL		△	●			●	●	●	△	●	△								●		●				●		●	△	△	△	●	△				●	●		
GSL		△	●			●	●	●	●	●									●		●				●		●	△	△	△	●	△				●	●		
L		△	●	△		●	●	●	●	●									●		●				●	△	●	△	△	△	●	△				●	●		
LG		△	●	●	●	●	●	●	●	●									●		●				△		●	△	△	●	△	●	△			●	●		
LG Touring		△	●	●	●	●	●	●	●	●									●		●			△		●	△	△	△	●	△	●	△			●	●		
GRANDE	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●									●		●			△	△			●	△	△	●	△			●	●			
ワゴンL		△				●	●	●	●	●									●		●				●	△		●	△	△	●	△			●	●			

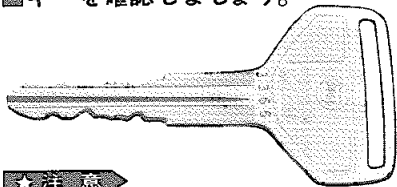
△……オプション ●……標準装備

(※:4M-Uエンジン車)



ご乗車の前に

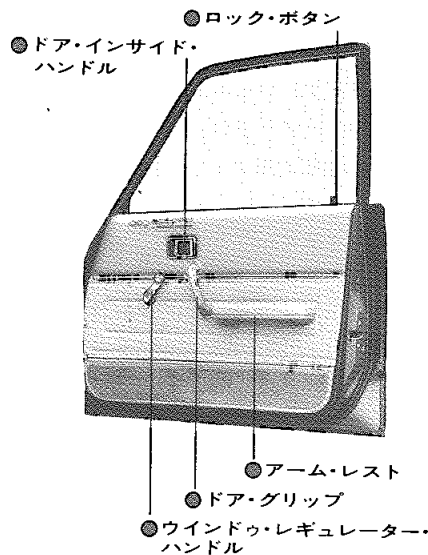
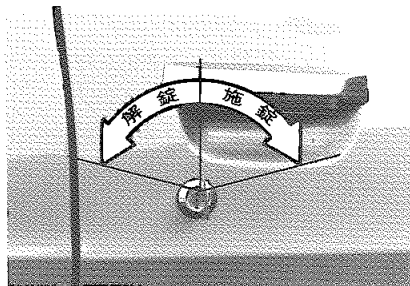
■ キーを確認しましょう。



★ 注意

キー・ナンバーを控えておきましょう。万一、キーを紛失した場合には、キー・ナンバーをトヨタ販売店へご連絡いただければ、専用のカッターにより純正の複製キーを作ることができます。純正以外の複製キーは、お使いにならないでください。

■ ドアについて



ドアをあけるときの(解錠状態で)

車外から……

ドア・アウトサイド・ハンドルの内側のレバーを引き上げます。

車内から……

ドア・インサイド・ハンドルを手前に引きます

★ 注意

必ず後方確認をしましょう。いきなりあけると後続車があつかるおそれがあります。

ドアを閉じるときは
確実にしめましょう。

★ 注意

半ドアの状態では、運転中ドアがあくおそれがあります。

ドアをロックするときは
車内から……

ドア・ロック・ボタンを押えます。

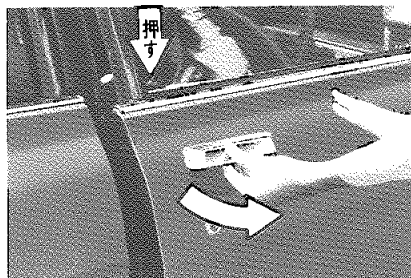
車外から……

<フロント・ドア>

キーを使用するとき

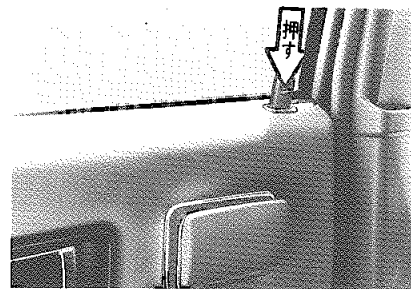
解錠、施錠の方向は写真を参考にしてください。

キーを使用しないとき



ロック・ボタンを押えドア・アウトサイド・ハンドルの内側を引き上げたままドアをしめます。

<リヤ・ドア>

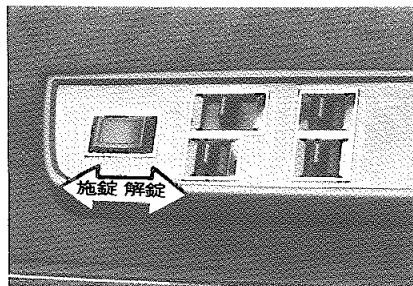


ロック・ボタンを押え、そのままドアをしめます。外からの解錠はできません。

★注意

キーを車内に置き忘れないようにしましょう。

■電磁式ドア・ロック ＊

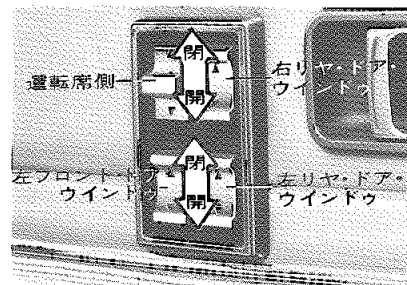


運転席側のドアにマスター・スイッチがついています。このスイッチのDOOR LOCK側を押すと全ドアが施錠され、UN LOCK側を押すと全ドアが解錠できます。ただし、マスター・スイッチを押し続けると、ただちに作動しないことがあります。いったんスイッチを離して再度押してください。

なお、運転席側はインサイド・ハンドルを操作することにより、ドアをあけることができます。

■パワー・ウィンドウ ＊

<マスター・スイッチ>



ドア・ウィンドウ・ガラスは、すべてスイッチで開閉できます。

また、運転席からは、全ドアのウィンドウ・ガラスがリモート・コントロールできるマスター・スイッチが取り付けられています。

その他のドアには各々のウィンドウ・ガラスが開閉できるスイッチがついています。

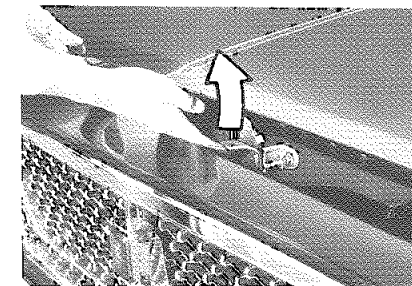
★注意

ウィンドウの開閉は、エンジンがかかっているときに行なってください。

■エンジン・フードをあけるには



1. エンジン・フードをあけるには、計器盤右下のレバーを引きます。ロックがはずれ、セーフティ・ラッチがかかった状態になります。

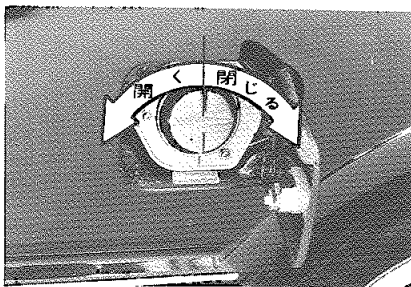
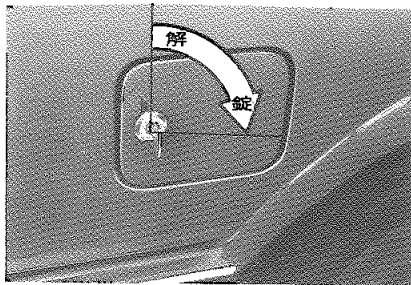


2. エンジン・フードのすき間に手を入れ、セーフティ・ラッチをはずしエンジン・フードをいっぱいあけます。
3. 閉じるときは、フードを下げた前端を押えつければロックします。

★注意

フードが半ロックの状態では走行しないでください。

■ガソリンを補給するには



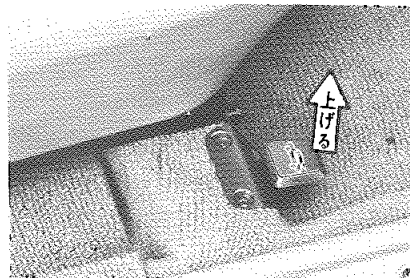
ふたをあけるにはキーを右に回したまま手前に引きます。

キャップは左に回すと開き、右に回すと閉じます。ふたを閉じるときは上から押えてください。

必ず無鉛レギュラー・ガソリンを補給してください。

有鉛ガソリンやガソリン添加剤を使用すると、触媒装置の浄化性能を損います。

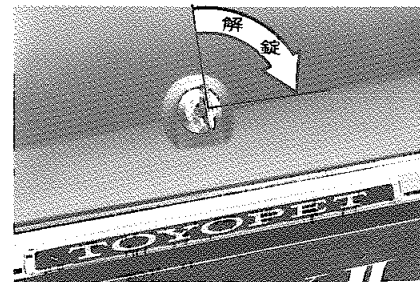
■トランクをあけるには
トランク・オープナー ✨



室内からトランク・リッドをあけることができます。

運転席ドアの、シート右横のレバーを、矢印の方向へ引き上げます。

キーを使用するときは



キーを差し込み、右に回します。

閉じるときは、上から手で押えつけるとロックされます。

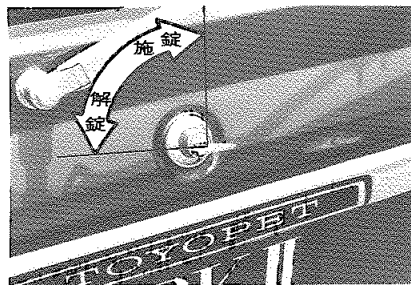
トランク・ルーム・ランプ ✨

トランク・リッドをあけると、ランプが点灯し、トランク内が照明されます。

★注意

キーをトランク内に置き忘れないようにしましょう。

■バック・ドア
ワゴン車

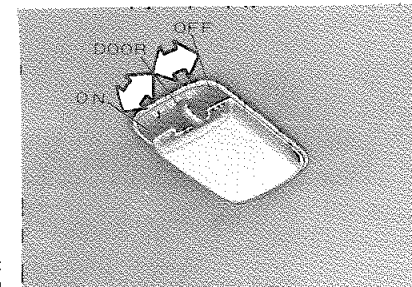


施錠の位置でキーを差し込み、左へ回しプッシュ・ボタンを押して、バック・ドアを持ち上げて開けます。

バック・ドアを開くと、バック・ドア・ランプが点きます。

閉じるときは、バック・ドアをそのまま下までおろし、上から手で押えつけます。そのままの位置でキーを差し込み、右へ回すと施錠できます。

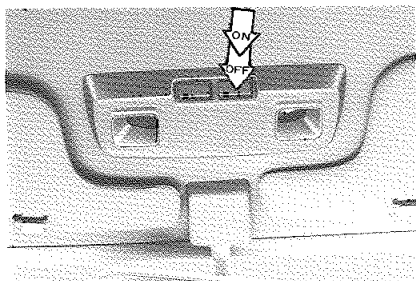
■ルーム・ランプとドアの関係は



ルーム・ランプ・スイッチは3段になっています。

- ON……………ドアの開閉に関係なく
点灯
- DOOR ……ドアの開いたときのみ
点灯
- OFF……………ドアの開閉に関係なく
消灯

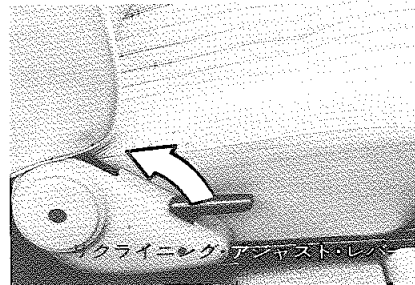
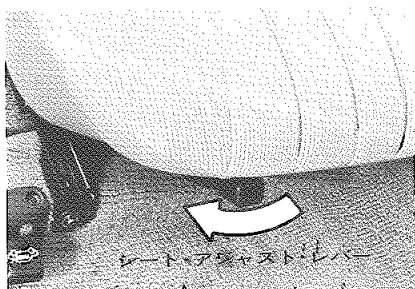
■ マップ・ランプ ※



スイッチ右側を押すと右側のランプが点灯し、左側を押すと左側のランプが点灯します。
もう一度押すと消灯します。

シートについて

■ フロント・シートの位置を調整しましょう。



シートの位置調整は、正しいドライビング・ポジションで運転するために必要なことです。

ペダルを十分に踏むことができ、ゆとりのある位置に調整しましょう。

前後位置調整

シート下のレバーを外側に押している間、前後に移動できます。

調整後は、シートがロックされたことを確認しましょう。

リクライニング調整

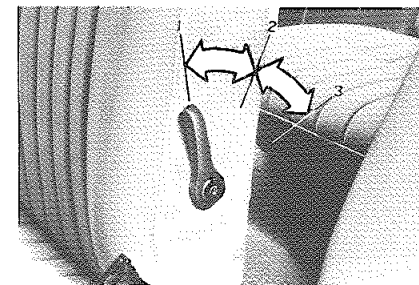
セパレート・シートのみ

シート横のレバーを引き上げると、シート・バックの角度が調整できます。

★注意

シートの位置調整は、車を運転する前に行なってください。車が動いているときの調整は運転姿勢がくずれ危険です。

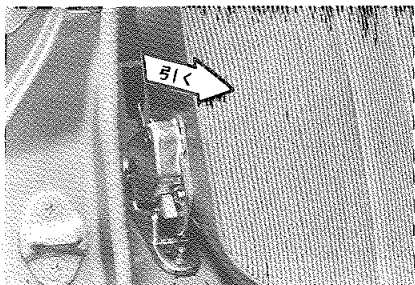
■ ランバー・サポート ※



レバーを動かすことにより、背もたれの固さを3段に変えることができます。
お好みに応じてお使いください。

■リヤ・シート

ワゴン車

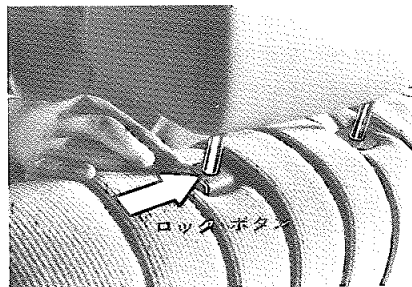


シート・バックは前に倒すことができます。リヤ・ロック・レバーを前にいっぱい引き、シート・バックを前に倒します。シート・バックを起こすときは、中央のパネルを持ち上げて起こします。



シート・バックは後に押えつくと自動的に固定されます。

■ヘッド・レストを正しい位置に



ヘッド・レストを引き上げ、頭の後方の位置になるように調整します。下げるときは、ロック・ボタンを押しながら下げます。

■シート・ベルトを忘れずに

運転するときには、必ずシート・ベルトをしましょう。

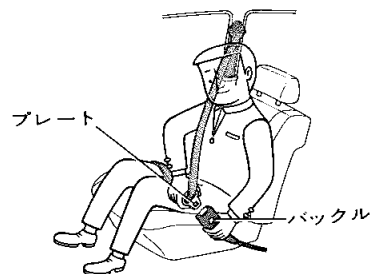
フロント・シート・ベルトの装着方法

ELR(緊急時オート・ロック・リトラクター)式シート・ベルト *

通常は伸び縮みが自由ですが緊急時には、自動的にロックされます。

ベルトの長さは調節する必要はありません。

1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 巻き取り装置からベルトをゆっくり引き出し、ねじれていないことを確認してプレートバックルにはめます。腰部のベルトは腰骨の位置に装着しましょう。

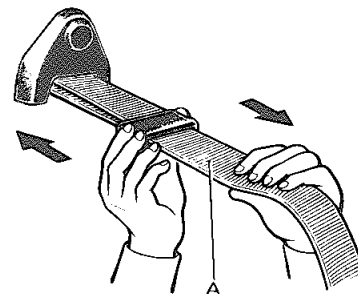


NLR(ノン・ロッキング・リトラクター)式シート・ベルト *

1. シートを調節し、正しい姿勢ですわります。
2. 巻き取り装置からベルトをいっぱい引き出し、ねじれていないことを確認してプレートをバックルにはめます。プレートがバックルにはまらないときは、ベルトが長くなるように調整します。
3. 巻き取り装置からベルトをいっぱい引き出した状態で、腰部のベルトが腰骨にぴったりするまで、肩ベルトを引き上げます。
4. 胸とベルト間に、にぎりこぶしがはいるくらい余裕があるように肩ベルト部を調整します。
5. ベルトの調整

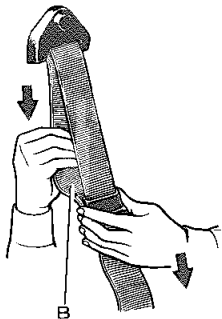
<長くする場合>

A部のベルトを水平方向に引っぱり長くします。

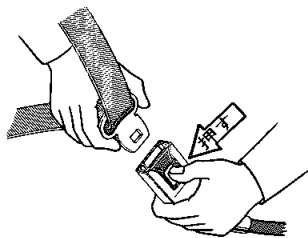


＜短くする場合＞

B部のベルトを引き下げベルトを短くします。



取りはずし



バックルの中央のボタンを押してベルトをはずします。

プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、自動的に格納されます。

リヤ・シート・ベルトの装着方法

プレート側のベルトをいっぱい引き伸ばしバックルにはめ長さを調整します。

★注意

1. 腰ベルトは、腰骨の位置にしっかり装着してください。
2. 1本のベルトを2人で使用することはやめてください。
3. ベルトのよごれを落すには、中性洗剤でブラッシングして布でふきとってください。

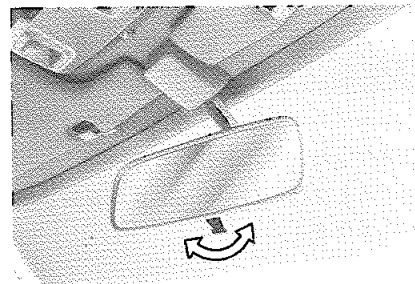
■ミラーの調整をしましょう。

インナー・リヤ・ビュー・ミラー

アウター・リヤ・ビュー・ミラー

後方視野が十分に確認できる位置に調整しましょう。

防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー *



夜間走行の場合、後続車のライトがインナー・ミラーに写り、まぶしいときに使用します。

ミラーの下にあるレバーを手前に引くと後続車のライトの反射が弱くなり、後続車が確認しやすくなります。

防眩が必要なくなったときは、レバーを押してもとの位置にします。

■リモート・コントロール・ミラー*

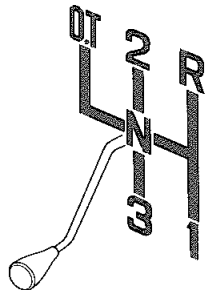


上下左右のノブの動きは、アウター・リヤ・ビュー・ミラーと連動になっていますので、後方視野が十分確認できる位置に調整しましょう。

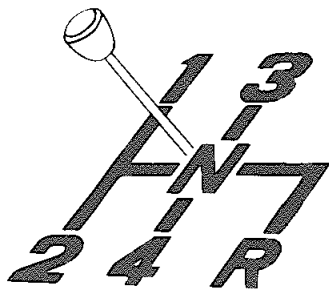
シフト・レバーについて

■マニュアル・トランスミッション

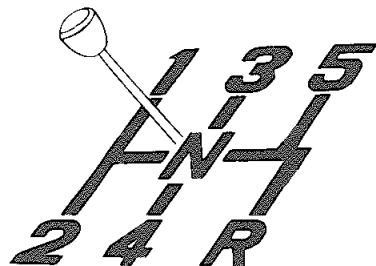
4速コラム・シフト



4速フロア・シフト

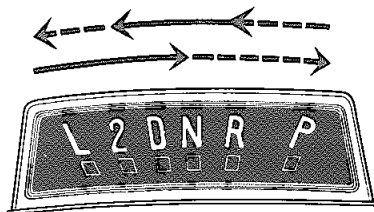


5速フロア・シフト



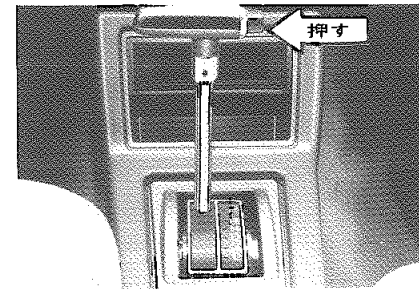
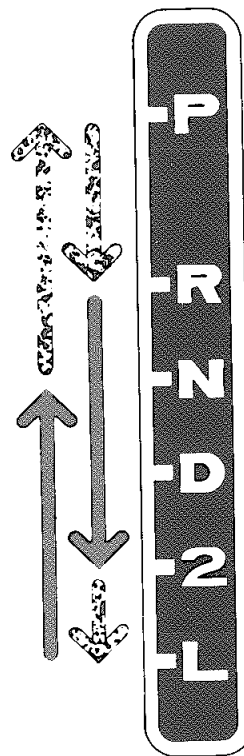
■オートマチック・トランスミッション 〈各レンジの入れ方〉

コラム・シフト



- そのまま動かします。
- -> 手前に引いてシフトします。

フロア・シフト



- そのまま動かします。
- ⇄ コントロール・レバー・ボタンを押して動かします。

- ⒫ パーキング・レンジ……駐車およびエンジンを始動する位置
- ⒫ リバース・レンジ……車をバックさせるときの位置
- ⒫ ニュートラル・レンジ… 中立位置、エンジンを始動することができますが⒫レンジで始動したほうが安全です。
- ⒫ ドライブ・レンジ……通常の走行をする位置
- ⒫ セカンド・レンジ……エンジン・ブレーキが必要なときに使う位置
- ⒫ ロー・レンジ……強いエンジン・ブレーキが必要なときに使う位置

★注意

ロー・レンジは50km/h以上で使用しないでください。

〈運転のしかた〉

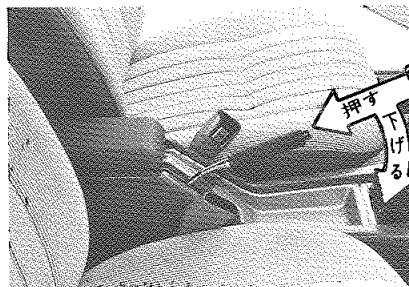
- 通常は①で発進するとロー・ギヤからスピードによりセカンド・ギヤに自動的に替わります。
- マニュアル・トランスミッション車と同様に、①から発進し、②から①へと手動の操作でも運転できます。
- 急坂路を下るときは、スピードに応じて①または②に入れて、エンジン・ブレーキをかけます。
- 追い越しなど、急加速をしたいときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、レバーは①でも、ギヤはトップからスピードによりセカンドまたは、ロー・ギヤに切り替わって急加速ができます。
(キック・ダウン操作)

★注意

1. エンジンを始動するときは、必ずパーキング・ブレーキ・レバーを引き、①にしてください。
2. ②と⑧へは、必ず車が完全に止まってから、入れてください。
3. 停車中②以外ではエンジンを高回転にしないでください。
4. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、⑧から①または⑧へ切り替えることは危険です。必ずアクセル・ペダルから足を離して①または⑧へ切り替えてください。
また停車中シフトするときは、パーキング・ブレーキ・レバーを引くかブレーキ・ペダルを踏んで行ってください。
5. 駐車時は必ず、パーキング・ブレーキをかけシフト・レバーを①にしてください。

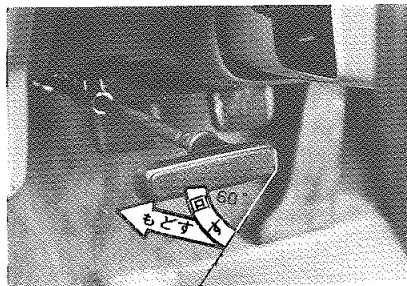
パーキング・ブレーキ・レバーについて

フロア・シフト車



駐車時、いっぱい引いて使用します。
もどすときは、レバーを軽く引きながら、レバー先端のノブを押えてもどします。

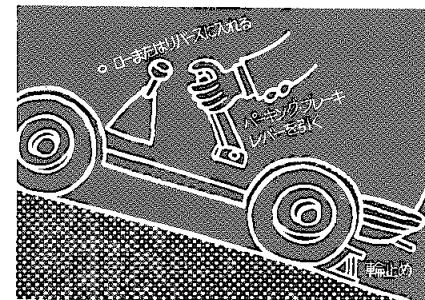
コラム・シフト車



駐車時、いっぱい引いて使用します。
もどすときはレバーを軽く引きながら、下に約60°回してもどします。

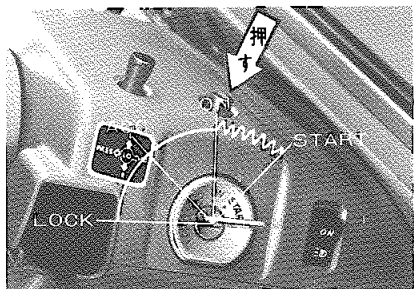
坂道での駐車は……

パーキング・ブレーキを引いた上、ギヤをローまたはリバース(オートマチック車はパーキング・レンジ)に入れ、さらに上り坂では後輪に、下り坂では前輪に輪止めをします。



エンジン始動について

■エンジン・スイッチ



- LOCK** ……キーを抜き差しできる位置。キーを抜くとハンドルがロックされ盗難防止に役立ちます。
- ACC** ……エンジンを止めたまま、ラジオおよびカー・ステレオの聞ける位置。
- ON** ……エンジン運転中の位置。
- START** ……エンジンを始動する位置。手を離せば自動的にONにもどります。

ロック

キーをACCからLOCKの位置にするときは、プッシュ・ボタンを押えて回します。

アン・ロック

キーがLOCKからACCに回らないときは、ハンドルを軽く左右に回しながら、エンジン・キーをACCの方向に回すとはずれます。

★注意

1. エンジン停止時、スイッチはLOCKまたはACCの位置にしておきましょう。長時間停止するときはLOCKの位置にしてください。ONの位置で放置するとバッテリー上がりの原因になります。
2. エンジンがかからないとき、無理にそのままSTARTの位置で長時間回さないでください。バッテリーが上がります。
3. エンジンを止めてラジオまたはカー・ステレオを長時間つけておくとバッテリー上がりの原因になります。
4. エンジンがかかっているとき、キーをSTARTの位置に回さないようにしましょう。スターターが無理にかみあい破損します。

■エンジンを始動するには

M-EUエンジンを除く全車

1. エンジンを始動する前にアクセル・ペダルを次のように踏み込みます。

外気温	踏む回数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足を離しエンジンを始動します。
3. しばらく暖機運転をします。オートマチック・チョークが働いている間は、アイドル回転数は通常より高くなっているのでアクセル・ペダルを踏んでいる必要はありません。

★注意

暖機運転のときエンジンを高回転のまま10分以上放置しないでください。水温が上がったら必ず一度アクセル・ペダルを踏み込んで、エンジン回転数を下げてください。

M-EUエンジンとう載車

1. アクセル・ペダルから足を離れたままエンジンを始動します。
2. そのまましばらく暖機します。エンジンが冷えている間は自動的に濃い混合気となり、エンジン回転数は高くなっていますが、暖機が終れば自動的にアイドル回転になります。

スイッチ、メーター について

■スピードメーター〈速度計〉

指針は車の走っているスピードを示し、約100km/h以上になると、チャイムが鳴り警告します。チャイムが鳴っているとき、指針が振れることがあります、異常ではありません。

■オドメーター〈総積算距離計〉

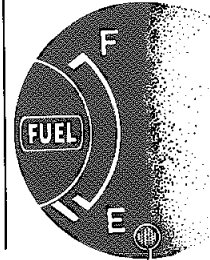
走行した総距離をkmの単位で表わします。白字に黒文字は、100mの単位です。

■トリップ・メーター〈積算距離計〉

オドメーターと共に走行した距離を表示します。ある区間または、期間に走行する距離を知りたいとき0にもどして使用します。0にもどすときは、トリップ・メーター・ノブを押せば0にもどります。

■フューエル・ゲージ〈燃料計〉

エンジン・スイッチがONのときにフューエル・タンク内の燃料の量を示します。エンジン・スイッチがON以外では、指針はEより下の位置にあります。



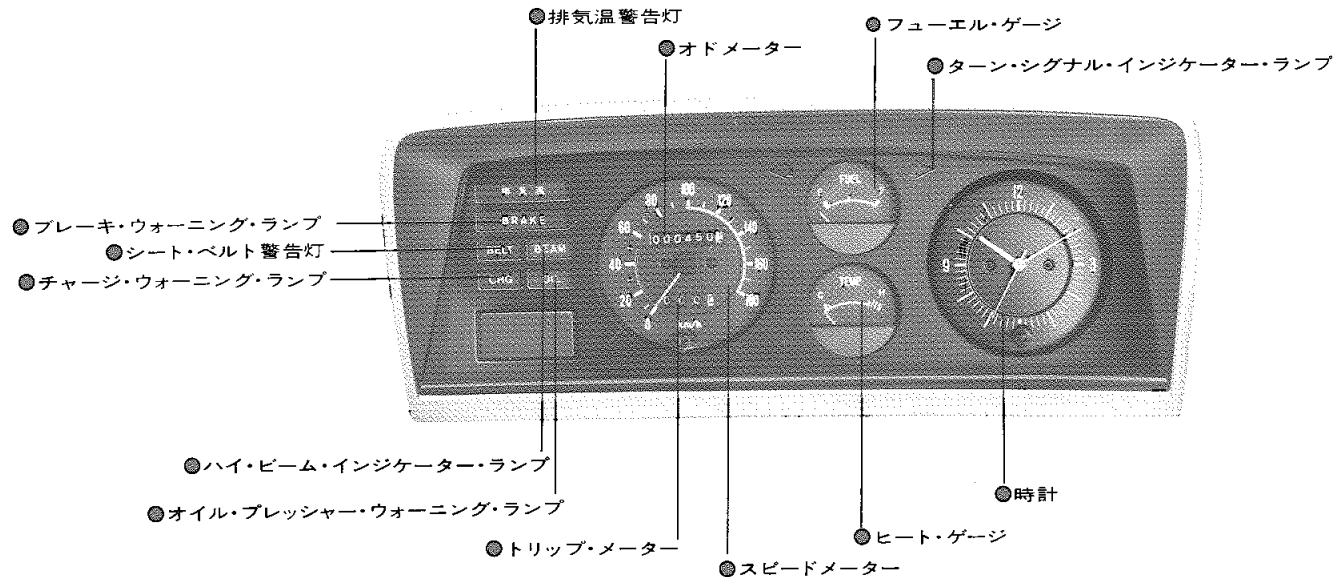
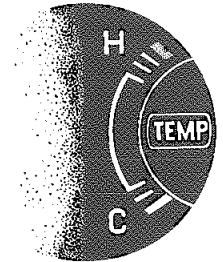
Eに近づいたら
早めに燃料を補給
してください。

フューエル・ウォーニング・ランプ

■ヒート・ゲージ〈水温計〉

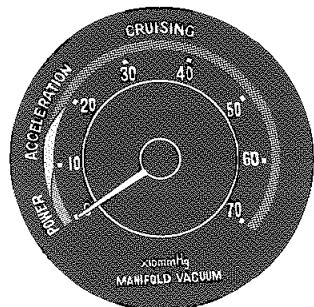
エンジン・スイッチがONのとき、冷却水温を示します。水温が低いときおよびスイッチがON以外ではCより下の位置にあります。

指針がレッド・ゾーンを示すときは、冷却水の有無、漏れおよび、ファン・ベルトのゆるみなどについて点検してください。



4 眼メーター DX車

EDモニター *



EDモニターの表示はエンジン負圧を表わします。経済走行の指針としてご利用ください。

POWER (橙色)

急加速時(エンジン負荷の大きいとき)の範囲。

この場合は燃料消費量の最も多いときです。

ACCELERATION (黄色)

発進時および定常走行中、一時的に加速するときの範囲。

この場合、燃料消費量はPOWER時より少ないときです。

CRUISING (緑色)

定常走行中の範囲。

この場合、燃料消費は経済的です。

定常走行では、指示が大きい状態で運転すれば、燃料消費を少なくできます。

シフト・ポジションが低いときは、指示が大きくなるがありますが、必ずしも経済的ではありません。

走行可能な限り高いシフト・ポジションを使用してください。

★注意

1. ゾーン内周は低速走行時、ゾーンの外周は高速走行時の目安としてください。
2. エンジン・ブレーキ時には指示が、アイドリング時より大きく示します。

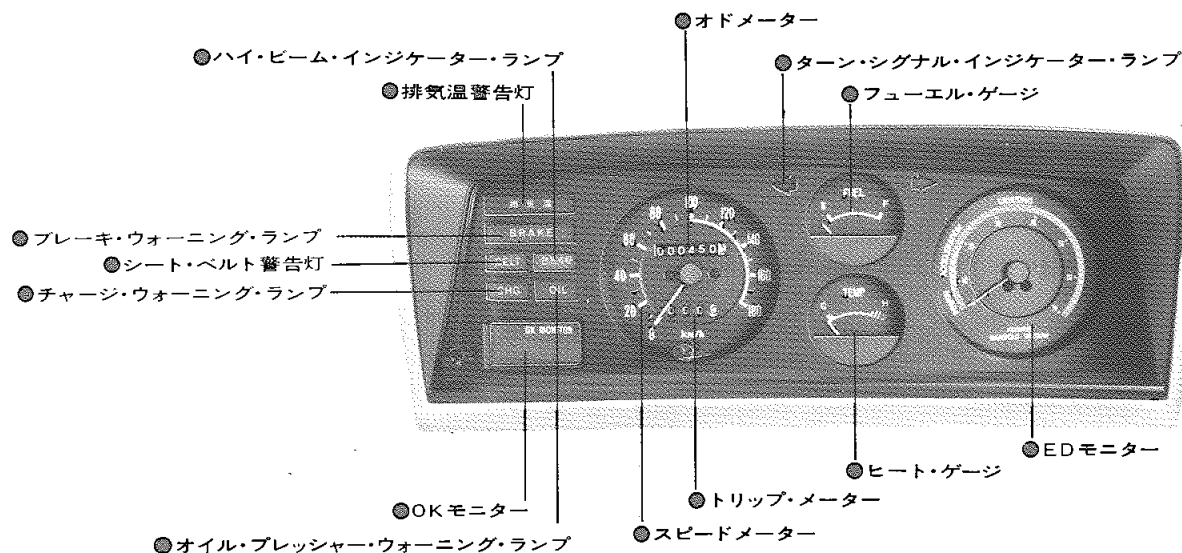
チャージ・ウォーニング・ランプ

〈充電警告灯〉

エンジン回転中、充電系統が異常のときに点灯し(赤色)警告します。

ただし、エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯し、始動すると消灯します。

EFI車は電圧が規定以下に下がっても点灯し警告します。



4眼メーター GL車

■ **タコメーター** 〈エンジン回転計〉 ※

エンジン回転数を示します。

赤色の部分をレッド・ゾーンといい指針がレッド・ゾーンにあるときは、エンジンがオーバーランをしていることを示します。指針がレッド・ゾーンにはいらないようにしてください。

C-RX車	5,500~6,300	黄色
"	6,300以上	赤色
C-MX車	6,000回転以上	赤色

■ **ターン・シグナル・インジケーター・ランプ** 〈方向指示器指示灯〉

右折または左折のとき、それぞれのターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅(緑色)します。

■ **フューエル・ウォーニング・ランプ** ※

〈燃料残量警告灯〉

エンジン・スイッチがONのときフューエル・タンク内の残量が10ℓ以下になると点灯し警告します。

■ **オイル・プレッシャー・ウォーニング・ランプ** 〈油圧警告灯〉 ※

エンジン回転中、潤滑系統が異常のときに点灯(赤色)し警告します。

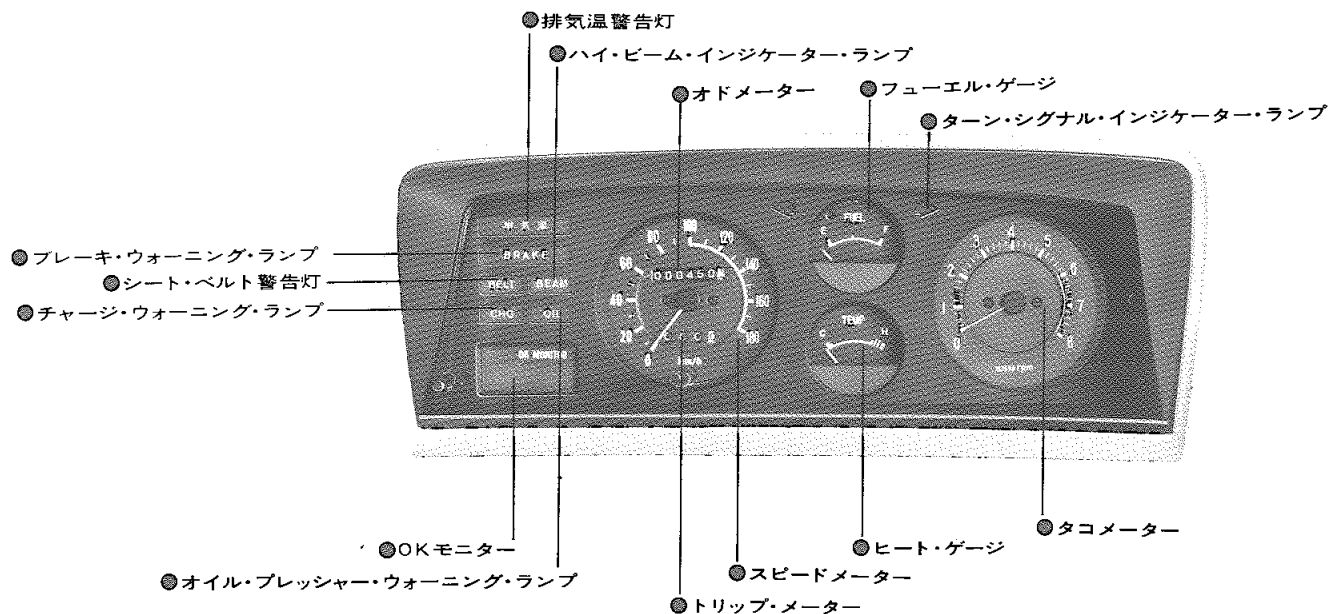
エンジン停止中にエンジン・スイッチをONにすると点灯(赤色)し、始動すると消灯します。点灯したままのときは、オイル量を調べてください。

■ **シート・ベルト警告灯**

パーキング・ブレーキ・レバーを引いた状態で、エンジン・スイッチをONにすると点灯(赤色)し、シート・ベルトを装着すると消えます。

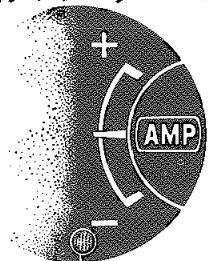
■ **ブレーキ・ウォーニング・ランプ**

1. エンジン・スイッチがONのとき、パーキング・ブレーキ・レバーを引くと点灯(赤色)し、レバーをもどすと消えます。
2. レバーをもどしても消灯しないとき、または走行中点灯したときは、ブレーキ・フルードが規定レベル以下になっているかまたはESCが故障している(ESC付き車)ことを警告します。グランデ車は油圧系統に異常が生じた場合も点灯し警告します。



4眼メーター L 車

■アンメーター〈電流計〉 ※



指針の位置

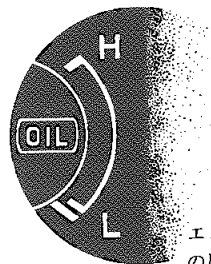
- { +側……充電状態
- { -側……放電状態

チャージ・ウォーニング・ランプ

エンジン始動後、指針は⊕側に一時大きく振れますがその後徐々にもどり、わずかに⊕側を指示する状態で静止すれば正常です。

エンジン始動後も⊖側を指示するときは、フォグ・ランプなどの電気の使いすぎか、充電系統の故障が考えられます。ヘッドランプ、フォグ・ランプなどを消してもなお⊖側を指示するときは点検が必要です。

■オイル・プレッシャー・ゲージ〈油圧計〉 ※



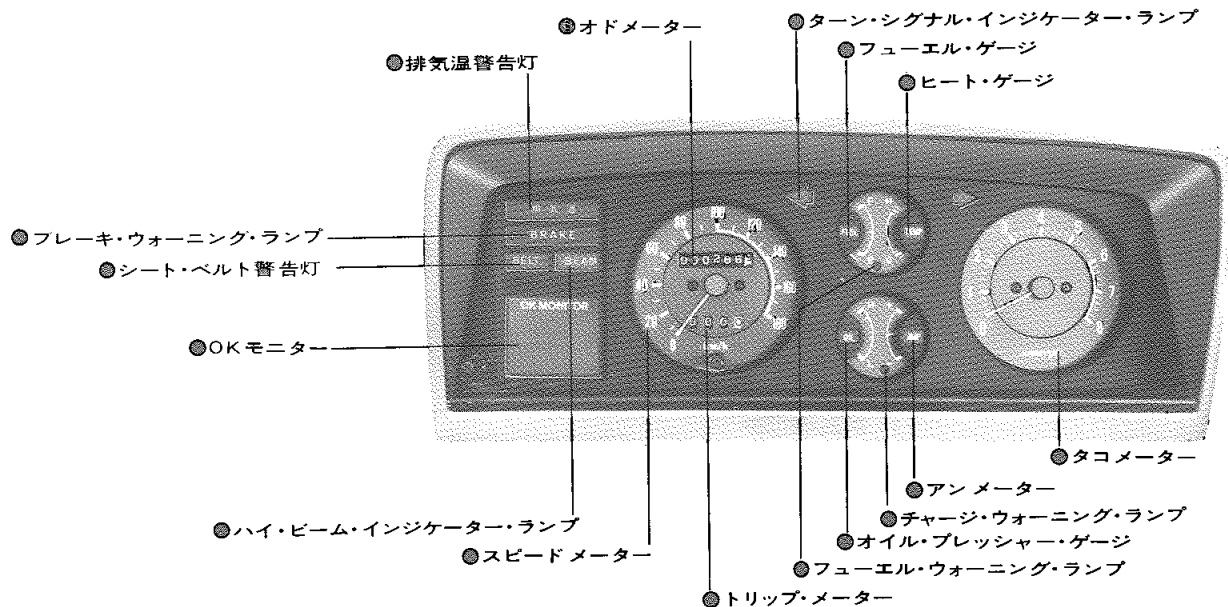
エンジン回転中の潤滑油の圧力を示します。

エンジン回転時の潤滑油の圧力を示します。エンジン回転を上げても指針が動かないときは潤滑系統に異常がありますので、エンジンをただちに止めて、オイル量を

点検してください。オイル量が正規であれば、他のところに故障がありますので、サービス工場で点検をしてください。

■ハイ・ビーム・インジケータ・ランプ

ヘッドランプがハイ・ビームのとき、ハイ・ビーム・インジケータ・ランプが点灯(青色)します。



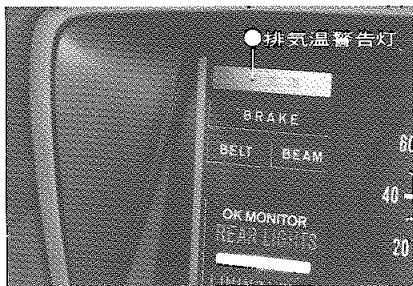
6眼メーター GSL, LG, LG Touring, GRANDE車

⑰ = 装備の知識について

無断複製禁止

■排気温警告灯

触媒装置の温度上昇を警告します。



1. エンジン・スイッチをONにすると「排気温」のランプが点灯し始動すると消灯します。

ONにしても点灯しない場合は、ランプ切れ、回路断線などの故障が考えられますので、サービス工場で点検を受けてください。

2. 点火系統に故障を生じたときなど、「排気温」ランプが点灯することがあります。これは触媒温度が高くなったことを示しますので、必ず次の処置をしてください。

(1)走行中は速度を落してください。

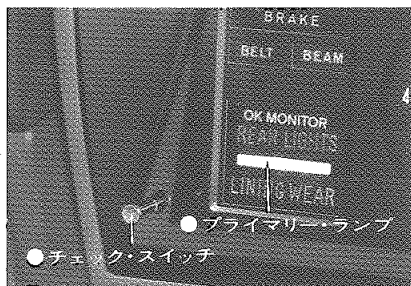
警告灯が作動したときの、半分程度に速度を落して走行してください。普通は数分内に消灯します。

(2)停車中は、エンジンを止めて冷却するまで放置してください。冷却した後は再びエンジン・キーをONにしても点灯しません。

警告灯が消灯した場合はもとのように走行できます。たびたび点灯する場合は、そのまま使用せず、サービス工場で点検整備を受けてください。なお、充電系統の故障によりチャージ・ウォーニング・ランプが点灯する場合には「排気温」ランプも同時に点灯しますがこの場合は触媒の温度上昇を警告しているではありません。

■OKモニター ※

走行中、異常個所が発生した場合を検出し運転者に知らせます。



使用方法

OKモニターは次の個所のチェックができます。

A グループ			B グループ		
順位	検知項目	不具合状況	順位	検知項目	不具合状況
1	BRAKE LIGHTS	ストップ・ランプ (消灯時—全灯切れ) (点灯時—1灯以上の切れ) ストップ・ヒューズ切れ	1	LINING WEAR (LG Touring) (GRANDEのみ)	前輪のいずれかのディスク・ブレーキ・パッドの厚さが、使用限度以下になったとき
2	REAR LIGHTS	テール・ランプ、ライセンス・ランプ点火時1灯以上切れ検知 テール・ヒューズ切れ	2	RADIATOR (LG車以上)	ラジエーター・リザーブ・タンク内の冷却水が0.4ℓ以下になったとき
3	BATTERY	バッテリー電解液がバッテリーのLOW LEVEL以下に減少	3	W-WASHER (LG車以上)	ウインドウ・ウォッシャー液が0.4ℓ以下になったとき

1. プライマリー・ランプのチェックを行ないます。

イグニッション・スイッチをONにし、OKモニターのプライマリー・ランプが赤く点灯し、バルブ切れのチェックができます。

2. エンジン・スイッチONの状態、チェック・スイッチを押すと、OKモニターの表示部に検出文字が順次表示されます。

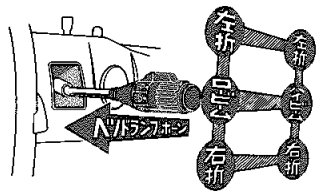
すべての検知項目が表示されれば、ランプ類は正常です。

3. エンジンを始動するとプライマリー・ランプは消灯し、OKモニターは作動状態となり、異常項目がある場合はプライマリー・ランプが点灯し、異常項目の文字が表示されます。また、同じグループに2ヶ所以上の異常が発生した場合は優先順位が高いものが表示されます。

★注意

OKモニターだけで作業点検を済ませず、お出かけ前の点検はエンジン・フードをあけて行ってください。

■ ターン・シグナル・レバー



ターン・シグナル・スイッチとして……

右左折のとき上図のように操作します。操作した側のターン・シグナル・ランプが点滅するとともにターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅します。ハンドルをもとにもどすとレバーは自動的にもどります。ハンドル操作が少ないときスイッチが自動的にもどらない場合があります。このときは手でもどしてください。

ヘッドランプ・ホーン・スイッチとして……

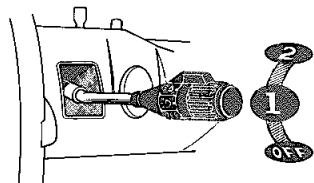
レバーをロー・ビームの位置から手前に引いている間ヘッドランプのハイ・ビームが点灯します。

高速道路で先行車を追い越すときなどの合図として使います。

ディマー・スイッチとして……

ハイ・ビームとロー・ビームの切り替えをします。夜間先行車や対向車のあるときはロー・ビームにしてください。

■ ライト・コントロール・スイッチ



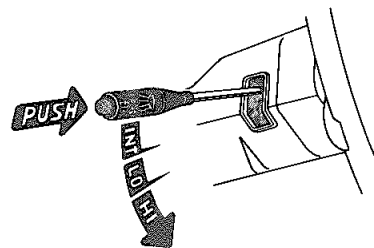
エンジン・スイッチに関係なくランプがつけます。

①および②の位置でそれぞれ次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	①	②
ヘッドランプ	○	○
クリアランス・ランプ、テール・ランプ	○	○
ライセンス・プレート・ランプ	○	○
メーター・パイロット・ランプ	○	○

■ ワイパー&ウォッシャー・スイッチ

ワイパー・スイッチとして……



INT ……………雨量の少ないときに

使用します。約4～5秒おきにワイパーが作動します。

LO ……………普通雨量のとき使用します。

HI ……………雨量の多いときに使用します。

ただし、STD車はLOとHIの2段切り替えです。

★注意

ウインドウ・ガラスがよごれたまま使用するとガラスに傷がつくことがあります。ウインドウ・ガラスがよごれているときはウォッシャー液噴射後ワイパー・スイッチを入れてください。

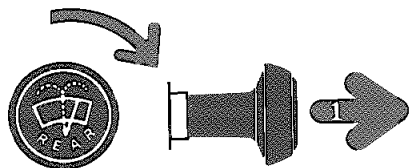
ウォッシャー・スイッチとして……

スイッチを押すと、ウォッシャー液を噴射します。ウインドウ・ガラスがよごれているときに使用します。

★注意

ウインドウ・ウォッシャー液がカラのときはスイッチを押さないでください。押しすとポンプを痛めるおそれがあります。

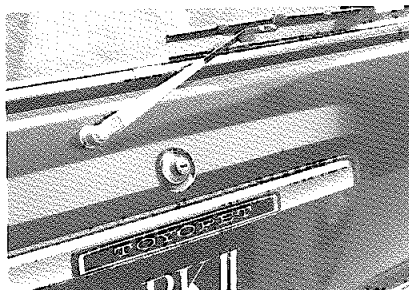
■ リヤ・ワイパー ※



セダン車



ワゴン車



エンジン・スイッチがONでこのスイッチを引くと作動します。

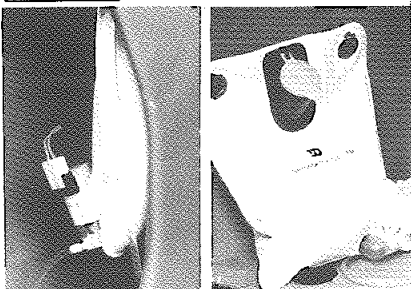
スイッチを切ると、ワイパーは動き始めの位置までもどって止まります。

スイッチを右に回すと、ウォッシャー液が噴射されます。

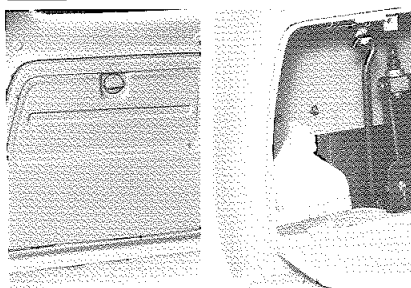
ガラスがよごれているときに使用します。

ウォッシャー・タンクの位置

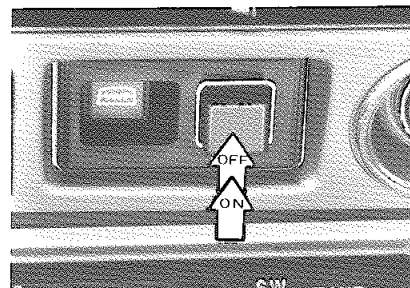
セダン車



ワゴン車



■ リヤ・ウインドウ・デフォッガ・スイッチ ※



エンジン・スイッチがONのとき作動します。

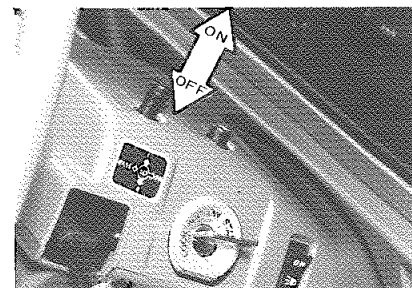
リヤ・ウインドウが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りをとります。

スイッチをONにすると、照明ランプが点灯し、作動していることを示します。

★注意

1. デフォッガは消費電力が大きいため、リヤ・ウインドウの曇りが消えたらスイッチを切ってください。スイッチを入れっぱなしにしておくと、バッテリー上がりの原因になりますのでご注意ください。室内の曇りを取るもので、雨水を乾燥させたり、雪をとかす能力はありませんので必要以上に使用しないでください。
2. 熱線入りガラスの清掃は、ガラス・クリーナーなどによる清掃をさけ、またぬらした布で、何回も強く拭かず熱線の方向に平行して、できるだけ回数を少なく拭いてください。

■ ハザード・ウォーニング・スイッチ



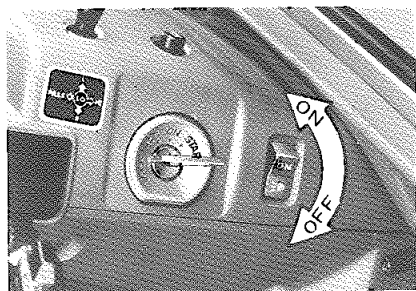
故障して、路上駐車するとき他車の追突防止のため使用します。

スイッチを引くと、前後左右のターン・シグナル・ランプと共に、ターン・シグナル・インジケーター・ランプが点滅し、駐車していることを知らせます。

★注意

ハザード・ウォーニング・スイッチは非常の場合以外は使わないようにしましょう。走行中、トンネル内などで使用すると他車の誤解をまねき危険です。

■ パーキング・スイッチ

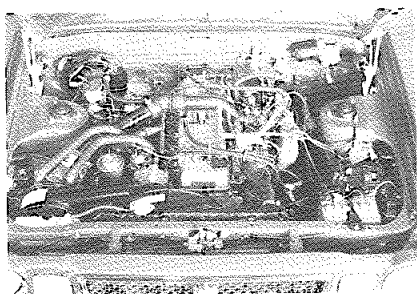


スイッチをONにして夜間路上駐車時を使用します。

前後左右のパーキング・ランプが点灯します。

■ EFI (電子制御式燃料噴射装置)

M-EUエンジン車



EFIはエンジンが必要とする燃料を、キャブレターのかわりに、コンピューターによって正確にコントロールする装置です。

★注意

無線装置を取り付けるとエンジンに異常が生じることがあります。この場合は取り扱い店にご相談ください。

■ ESC (電子制御式スキッド防止装置)

ESCはすべりやすい路面や、高速走行における制動時の横すべりを、防止する装置です。

〈走行前のチェック〉

ブレーキ・ペダルを踏み、エンジン・スイッチをONにすると、エンジン・ルームから作動音“コトン”が聞えます。作動音が聞えたら走行してください。

ブレーキを踏めばESCは自動的に作動します。

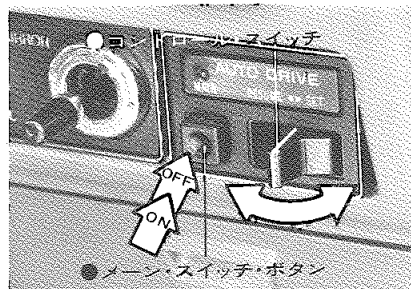
〈走行中のチェック〉

走行中、赤色のブレーキ警告灯が点灯した場合は、ESCに、故障が生じていますのでサービス工場へ連絡してください。

★注意

1. 万一、ESCが走行中、故障した場合には、普通のブレーキ機構にもどります。
2. 無線装置を取り付けるとESCが、誤作動することがあります。この場合は取り扱い店にご相談ください。

■ オート・ドライブ



オート・ドライブとは車速が一定に保たれる装置で、車速が60km/h以上でセットできます。50km/h以下になると自動的に、解除されます。

希望速度にセットするとき

メイン・スイッチを押すと、インジケーター・ランプが点灯します。

希望速度になったらコントロール・スイッチをSET側にいったん押しアクセル・ペダルを離してください。コントロール・スイッチを離れたときの速度にセットされます。

オート・ドライブを解除するとき

メイン・スイッチをOFFにしてください。また次の場合も解除できます。

1. ブレーキ・ペダルを踏んだとき
2. クラッチ・ペダルを踏んだとき
(マニュアル・トランスミッション車)
3. シフト・レバーをNにしたとき
(オートマチック・トランスミッション車)
4. パーキング・ブレーキを引いたとき

★注意

ブレーキ・ペダルまたは、パーキング・ブレーキ・レバーは不必要に操作すると他車に迷惑をあたえたり、危険をともなうことがありますので注意してください。

車速変更するとき

1. 微増速の場合

コントロール・スイッチをSET側に押しすぐ離すと、もとの車速から+5km/hの範囲内で増速することができます。

2. 減速の場合

コントロール・スイッチをSET側に押しつづけると、減速されますので、希望の車速になったら、コントロール・スイッチを離してください。

3. 増速の場合

そのままの状態でアクセルを踏み、希望の車速になったら、コントロール・スイッチをSET側に押ししてください。

解除前の設定速度にもどしたいとき

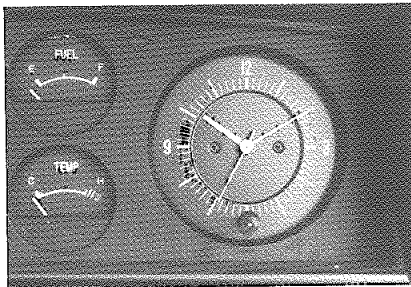
〈車速が60km/h以上の範囲にあるときのみ〉
オート・ドライブ作用時、ブレーキまたはクラッチを作動させてオート・ドライブを解除した後、再びもとの車速にもどしたいときは、コントロール・スイッチをRESUMEの方向へ押ししてください。

★注意

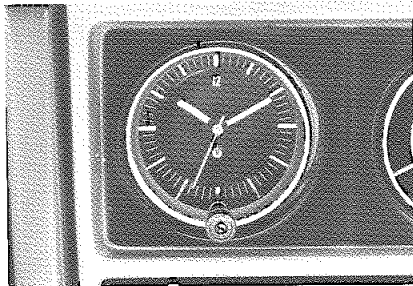
アクセルをいっぱい踏んだ瞬間には、メイン・スイッチをONにしないでください。

■時計 ★

電子式

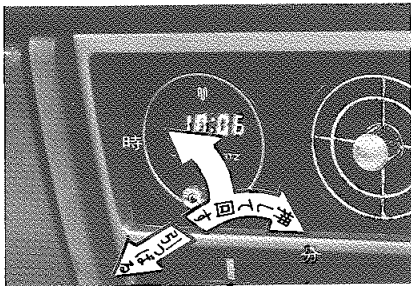


音さ式



時計調整はノブを引いたまま、回してください。音さ式時計は時計が止まった場合ノブをいっぱい引き、そのまま手を離すと秒針が動き始める起動装置がついています。

水晶式デジタル時計



イグニッション・スイッチがACC、ONの時に時刻が表示されます。またライティング・スイッチがONのときは減光して表示され見やすくなっています。またエンジン・スイッチをLOCKの位置にすると表示は消えますが、時計は正常に作動しています。

時刻調整

1. 時報に合わせて

ノブを手前に引っぱると同時に秒の単位までピッタリ調整され、スタートします。また時刻は

0～39分は切り下げて表示されます。

(例) 1:39 → 1:00

40～59分は切り上げて表示されます。

(例) 1:40 → 2:00

2. “時”調整

ノブを押して左へ回すと、時間表示が早送りします。

3. “分”調整

ノブを押したまま右へ回すと分表示が早送りします。

ラジオ・ステレオ

■アンテナ ★

アンテナを伸ばすときは手で引き出します。アンテナはいっぱい引き出してお使いください。

GRANDE車は、リヤ・ウィンドウ・ガラスにうめ込んであります。いつも最適な状態で受信できます。

■ラジオ

ラジオは、エンジン・スイッチがONまたはACCのとき聞くことができます。

AMラジオ ★

〈電源スイッチ〉

電源スイッチを押すと電源がはいります。

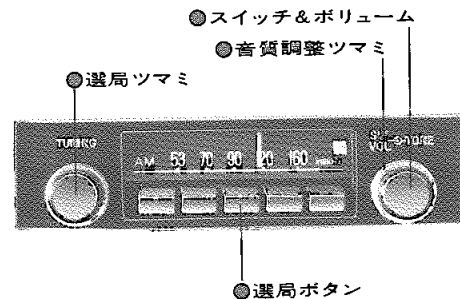
〈選局ボタンのセットのしかた〉

1. 選局ボタンの1つをいっぱい引き出します。
2. 手動選局ツマミでダイヤル指針を望みの局に合わせます。
3. 引き出したボタンをいっぱい押し込みます。
4. 他のボタンも同じ要領でそれぞれの局にセットできます。あとはダイヤル指針がどこにあっても、このボタンを押せばセットしておいた局が受信できます。放送局の違う地域へ行ったら選局しなおしてください。

〈音量調整〉

音量調整ツマミを左右に回して、適当な音量に調整してください。ツマミを右に回すと音が大きくなり、左に回すと音が小さくなります。

AMラジオ



＜音質調整＞

音質調整ツマミを左右に回して、お好みの音質に調整してください。

ツマミを右に回すと高音が強調され、左に回すと低音が強調されます。

＜手動選局＞

選局ボタンでセットした局以外の放送局を選ぶときは、左側の手動選局ツマミで選局してください。

AM/FMラジオ

＜AM/FM放送の受信のしかた＞

5つの選局ボタンのうち、右側3つのボタンを押し込むとAM放送が受信でき、左側2つの“FM”ボタンを押し込むとFM放送が受信できます。

選局ボタンのセットはFM2局、AM3局がセットできます。

他はAMラジオと同じです。

AM/FMマルチ・ラジオ

AM/FMラジオと同じ取り扱いですが、FMモノラルとFMステレオの切り替え用STボタンがついています。

FMステレオ放送を聞く時はSTボタンを押ししてください。ステレオ・インジケータ・ランプが点灯しステレオ放送が受信できます。もう一度押しすとFMモノラルになります。

＜フェーダ調整＞

フェーダ調整ツマミを右へ回すと、フロント・スピーカーの音量が増し、左へ回すと、リヤ・スピーカー(2コ)の音量が増します。もっとも臨場感の盛り上がる位置にこのツマミを調整してください。

＜FMステレオを上手に聞くためには＞

FM放送の電波はAM放送に比べ到達距離が短く直進性があるためステレオで聞いているとき、ビル、山の陰、電波の弱い

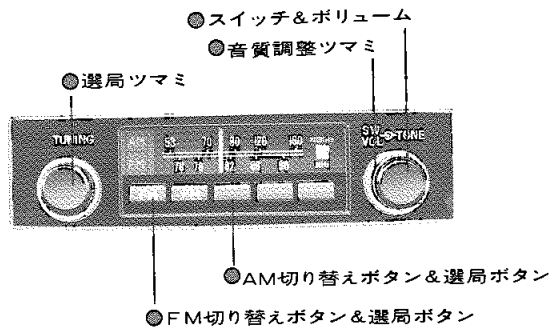
場所ではシャーシャーと雑音がいり、ステレオ・インジケータ・ランプが点滅することがありますが、これは電波が弱くなるためで、ラジオの故障ではありません。その場合はSTボタンをもう一度押しモノラルにしてください。聞きやすくなります。

＜雑音が気になるときは＞

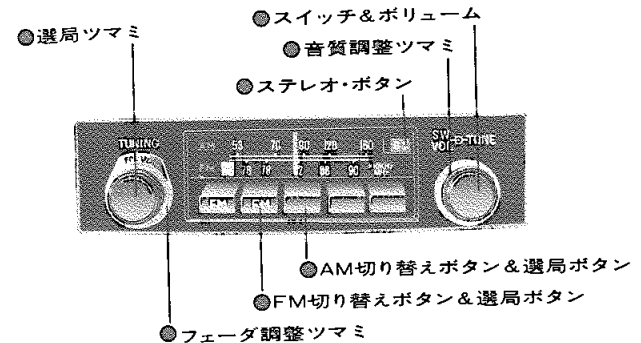
受信電波が雑音電波より弱い場合、プツプツと雑音がいります。その場合は次のように操作してください。

1. エンジンをつけた状態で選局ダイヤルを雑音の一番少ないところへ合わせなおしてください。
2. さらに気になるときは音質調整ツマミを左へ回し低音にすると聞きやすくなります。

AM/FMラジオ



AM/FMマルチ・ラジオ



■AMラジオ付きカセット・ステレオ*

■AM/FMラジオ付きカセット・

ステレオ *

<演奏開始>

カセット・テープを差し込み口にまっすぐ“ロック”されるまで差し込んでください。自動的にテープ走向表示ランプ(PLAY)が点灯し、演奏が始まります。このとき、ラジオの電源スイッチのON、OFFに関係なく自動的に演奏が始まります。

<音量、音質調整>

音量調整はラジオの(VOL)のツマミを右いっぱいにします。カセット・ステレオの(Rr・VOL)ツマミを右いっぱいにします。カセット・ステレオの(MAIN・VOL)ツマミで全体の音量を調整します。フロント・スピーカーの音量が大きいときは、ラジオの(VOL)ツマミでリヤ・スピー

カーの音量が大きい場合はカセット・ステレオの(Rr・VOL)ツマミを左に回して小さくして前後のスピーカーの音量をお好みの位置にしてください。

全体スピーカーの音質は、ラジオの音質(TONE)調整ツマミで調整してください。

<プログラム切り替え>

プログラム切り替えボタンを押すと、プレイ・ランプが切り替わり、テープ走行方向の切り替えができ、お好みのプログラムが選べます。

オート・リバース

テープ演奏が終ると自動的にプログラムが切り替わります。

<早送り(FF)、巻きもどし(REW)>

プレイ・ランプの点灯している方向と同じ方向にF/Rエジェクト・ボタンを斜めに押すと早送り、逆方向F/Rエジェクト・ボタンを斜めに押すとテープの巻きもどしができます。

<早送り(FF)、巻きもどし(REW)の解除>

F/R&エジェクト・ボタンを元にもどすとテープの早送り、巻きもどしを解除することができます。

<演奏停止>

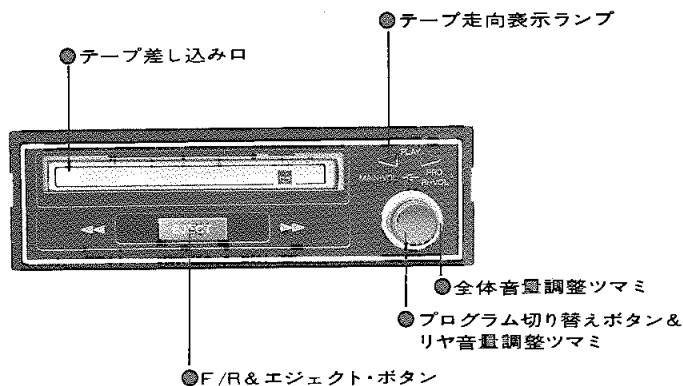
演奏を停止させテープを取り出したいときは、F/R&エジェクト・ボタンを強く押し込んでください。

カセット・テープが差し込み口に押し出され同時にテープ・プレーヤーの電源もOFFになります。

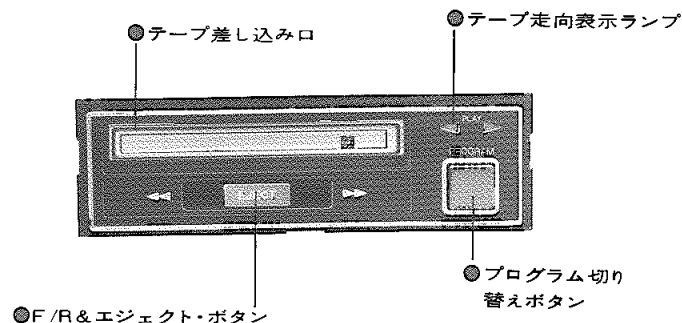
■AM/FMマルチ・ラジオつきカセット・ステレオ *

AM/FMラジオ付きカセット・ステレオと同じ取り扱いですが、スピーカーの音量、音質の調整はラジオで行ないます。

AM/FMラジオ付きカセット・ステレオ



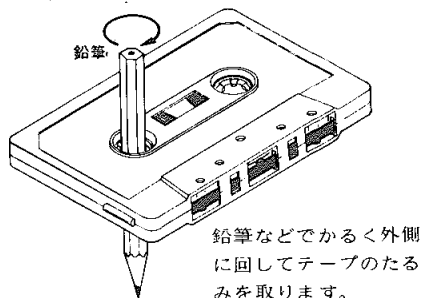
AM/FMマルチ・ラジオ付きカセット・ステレオ



★注意

1. C-120テープおよびクローム・テープは使用しないでください。テープの巻きつきや、ヘッドの摩耗を早めます。
2. テープを演奏状態のままエンジン・キーを切らないでください。回転むらや、テープの巻き込みの原因になります。
3. カセット・テープをそう入するときはテープのたるみをなおしてください。
4. テープの保存はテープが露出しないようにケースに入れ直射日光を避けて保存してください。

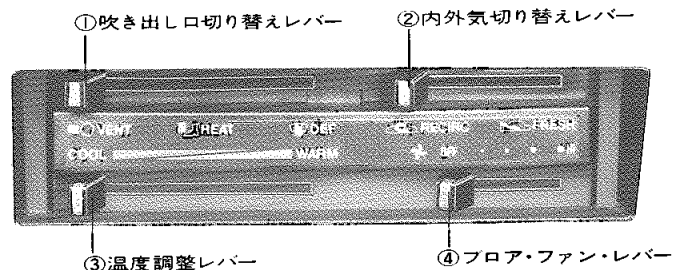
たるんだテープの修正方法



ヒーター, エア・コンディショナー

■ヒーター *

このヒーターは、冷風（外気）と温風を混合して、好みの吹き出し温度が得られる、フル・エア・ミックス方式になっており、快適な室温に調整することができます。またサイド・ベンチレーターによってドア・ガラスの曇りをとるサイド・デフロスターとして使用もでき、広範囲な利用方法が得られます。



各レバーは次のように調整することができます。

①吹き出し口切り替えレバー

VENTはセンター・ベンチレーターおよびサイド・ベンチレーターから吹き出します。この吹き出し口は風向きを変えることができます。またサイド・ベンチレーターは、閉じたりすることができます。

HEATはおもに足もとから吹き出し、サイド・ベンチレーターからも吹き出します。

DEFはおもにデフロスターから吹き出し、サイド・ベンチレーターからも吹き出すようになっています。

このレバーは無段階に調整できます。吹き出し口と各吹き出し口の風量の割合をお好きなように調整することができます。

②内外気切り替えレバー

RECIRCは内気循環式、FRESHは外気導入式に切り替わります。

中間位置にも調整できます。RECIRCは急速に車内を暖めるとき、または外気がよごれているときなど一時的に使用してください。

③温度調整レバー

COOLからWARMまで無段階に温度を調整することができます。

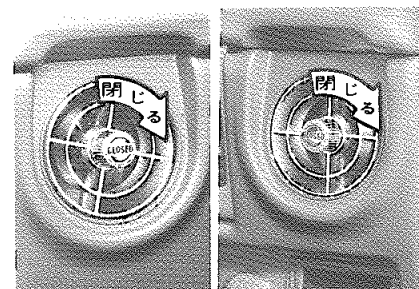
④フロア・ファン・レバー

風量を4段階に調整することができます。

■サイド・ベンチレーター

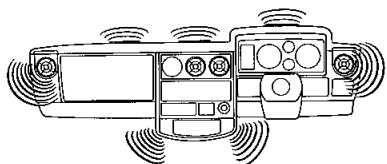
左側

右側

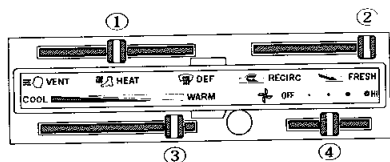


ヒーターを操作することによりベンチレーターおよびサイド・デフロスターとして作用します。風向きはお好みの方向に調節してください。またベンチレーションを閉じるときはノブを右に回します。

室内暖房<頭寒足熱型として>
吹き出し口



各レバーの位置

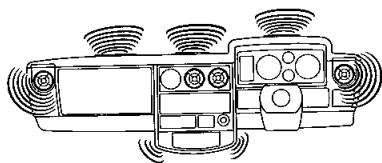


- ①のレバーをHEAT
- ②のレバーをFRESH
- ③のレバーをWARM
- ④のレバーを一段目からHI

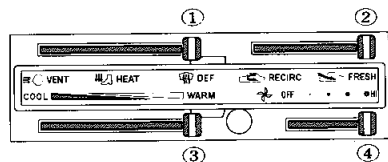
室内換気をよくし、快適な運転を行なうために②のレバーは必ずFRESHの位置にしてください。

温度調整は③のレバーで行ないます。顔が少し熱く感じられた時は③のレバーを左に動かしてください。デフロスター側からの温度が下がり快適な頭寒足熱暖房が行なわれます。お好みの位置に調整してください。

フロント・ガラスおよびドア・ガラスの曇りを取るには
吹き出し口



各レバーの位置



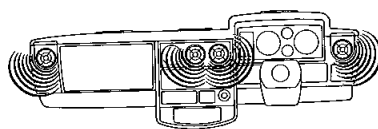
- ①のレバーをDEF
- ②のレバーをFRESH
- ③のレバーをWARM
- ④のレバーを一段目からHI

サイド・ベンチレーターをあげドア側に向けてください。ドア・ガラスの曇りもとれます。

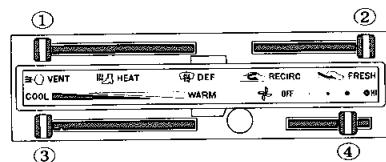
①のレバーをDEFとHEATの間になれば曇りをとると同時に足もとも暖められます。

曇りがとれたら①のレバーをHEAT側に動かしてください。

強制ベンチレーション
<強制外気導入による車内の換気>
吹き出し口



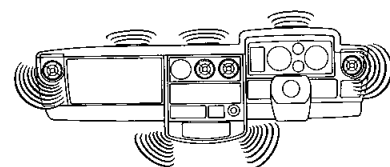
各レバーの位置



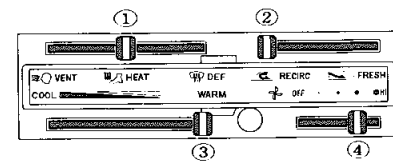
- ①のレバーをVENT
- ②のレバーをFRESH
- ③のレバーをCOOL
- ④のレバーを一段目からHI

外気のさわやかな風が、センター・ベンチレーターおよび、サイド・ベンチレーターを通して吹き出します。

急速に暖房する場合
吹き出し口



各レバーの位置



- ①のレバーをHEAT
- ②のレバーをRECIRC
- ③のレバーをWARM
- ④のレバーを一段目からHI

RECIRCの位置は、急速に暖房したい場合または、外気がよごれている場合に一時的に使用してください。通常はFRESHの位置でご使用ください。

★注意

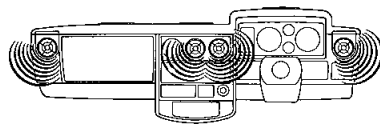
この状態のとき①のレバーをDEFにしないでください。ガラスが曇り危険です。

■エア・コンディショナー ✨

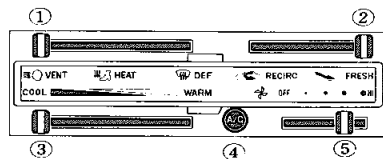
標準型ヒーターにクーラーを組み付け、暖房、冷房はもちろん湿気も取り去るオール・シーズン・タイプです。暖房の操作は標準型ヒーターの項を参照ください。暖房時に(A/C)を押すことにより除湿暖房ができます。

この項では冷房、除湿操作について説明します。

室内冷房 吹き出し口



各レバーの位置

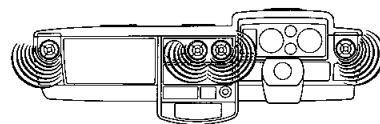


- ①のレバーをVENT
- ②のレバーをFRESH
- ③のレバーをCOOL
- ④のスイッチをON
- ⑤のレバーを一段目からHI

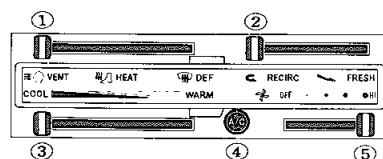
室内の換気をよくし湿気を取り快適な冷房ができます。通常走行中はこの位置でご使用ください。

温度調節は③のレバーで、COOLからWARMの間で快適な位置に調節してください。

室内を早く冷やすには 吹き出し口



各レバーの位置

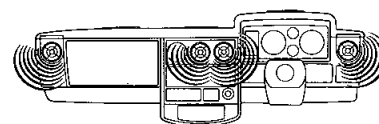


- ①のレバーをVENT
- ②のレバーをRECIRC
- ③のレバーをCOOL (左側いっぱい)
- ④のスイッチをON
- ⑤のレバーをHI

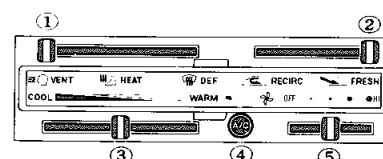
直射日光にさらされ室内温度が非常に高いとき、急速に温度を下げるには、まず余ドア・ガラスを下げ換気した後、冷房してください。

なお、この位置で長時間の使用はしないでください。通常走行中は②のレバーはFRESHにしてください。

除湿するには 吹き出し口



各レバーの位置

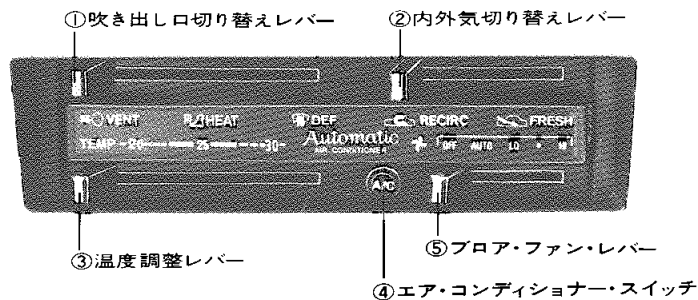


- ①のレバーをVENT
- ②のレバーをFRESH
- ③のレバーをCOOLからWARM
- ④のスイッチをON
- ⑤のレバーを二、三段目

梅雨時など曇りやすいとき室内の湿気を取り除き、さわやかな運転ができます。

■オート・エア・コンディショナー*

コントロール・レバーを一度セットすればあとは室内を常に快適な温度に自動的にコントロールされます。



操作方法

1. エア・コンディショナー・スイッチ④をONにします。
2. 内外切り換えレバー②を FRESH にします。通常はこの位置で、ご使用ください。快適な冷暖房ができます。RECIRCは急速暖房あるいは急速冷房したい時に使用してください。

3. 温度レバー③をお好みの温度に合わせます。平均室温が希望温度になるように、自動的に作動します。
4. ファン・スイッチ⑤をセットします。

OFF ……オート・エア・コンディショナーを使用しないとき

AUTO …風量が自動的にHIからLOWにコントロールされ希望温度に保たれます。

LO } 風量が手動で3段階に調節できます。
HI } ただし、この場合室内温度は温度レバーの目盛りに対し多少ずれる場合があります。

5. モード・レバー①を切り換えます。

VENT …強制ベンチレータークーラーとして使用するとき

〈吹き出し口—B, D〉

HEAT …ヒーターとして使用するとき

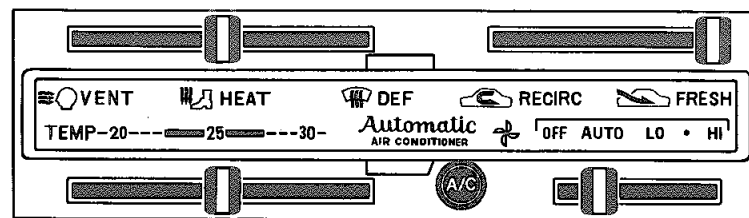
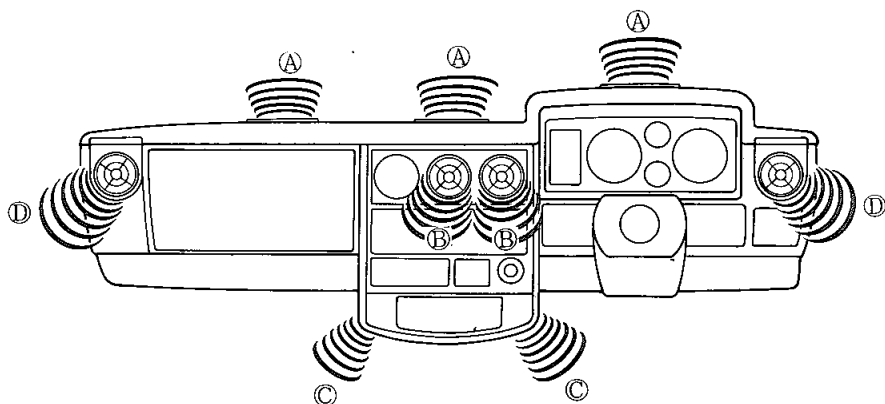
〈吹き出し口—C, D, Aから少し〉

DEF ……窓ガラスの曇りをとるとき

〈吹き出し口—A, D, Cから少し〉

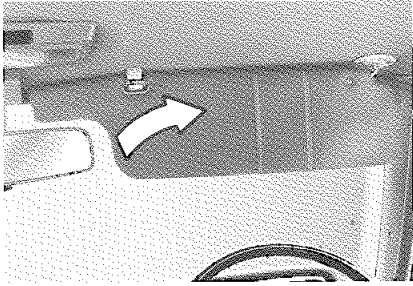
★注意

1. 冬期にエア・コンディショナーをヒーターとして使用しているときは、**(A/C)**スイッチをOFFにしてください。なお、除湿が必要なときはONにしてください。
2. 温度レバーを希望温度以上に大きく、操作しないでください。再度レバーを動かすときに、冬期に吹き出し口から冷風が、また夏期に温風が吹き出したりします。



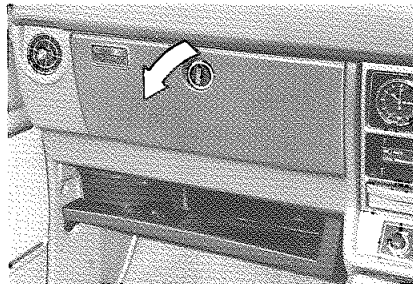
その他

■サン・バイザー



ホルダーからはずすと、横に回すことができます。

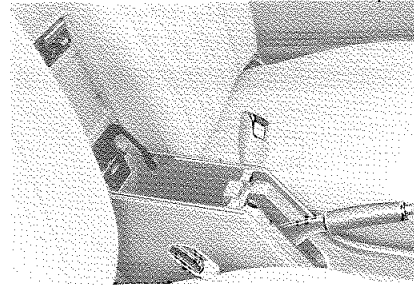
■グローブ・ボックス *



つまみを左に回すと開きます。

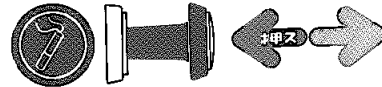
DX車以上ではライト・コントロール・スイッチがONのときに、ふたを開くとボックス内右横のランプがつきます。

■コンソール・ボックス *



フル・コンソールは運転席側のノブを引き上げてフタをあけることができます。

■シガレット・ライター

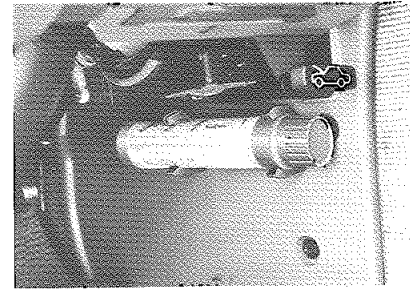


シガレット・ライターは押し込んだらすぐ手を離すとび出すのを待ちます。

★注意

押えつけたまましていると、シガレット・ライターをいためます。

■保安炎筒



踏み切り内の故障など、非常事態が発生したときに使用します。

使用方法は保安炎筒をよく読んで万に備えてください。

保安炎筒には有効期限があります。有効期間は3年で、有効期限はラベルに明示されていますので確認しておきましょう。発炎時間は約5分間です。

★注意

非常信号用としてのみご使用ください。使用中、筒の先を顔や体に向けたり、近づけたりすると火傷の危険があります。取り扱いには十分注意してください。また、トンネル内で使用すると視界が悪くなり危険ですので絶対使用しないでください。